

平成26年度第4回花巻市行政評価委員会会議録（しごと部会）

1 開催日時

平成26年8月18日（月） 午後3時30分～午後5時

2 開催場所

花巻市花城町1番47号 まなび学園2階第2学習室

3 出席者

委員 6名

影山部会長、小山田委員、瀬川委員、佐藤委員、高橋委員、折居委員
事務局、施策主管課

4 議題及び報告事項

◆施策：特産品の開発

- ・特産品開発後、「付加価値をどう高めていくのか」という面での行政フォローは行っているのか。
- ・フォローアップ後の付加価値の向上、付加価値向上による雇用拡大などについても成果指標としてはどうか。
- ・市民に「花巻の特産品は何か」と聞いても答えられない方が多い。6次産業化事業の取り組みにより特産品になるものはあるか。
- ・6次産業化事業について、昔は少額の事業でも採択されたが今は難しいと話している方があった。JAでも制度を活用してもらうべく、要望調査等を行っていくが、PR不足かもしれない。
- ・6次産業化事業で過去に取り組んだものは今も継続して商品を作っているのか。
- ・6次産業化事業については、農政課とはどういった形で連携しているのか。
- ・6次産業化事業で生まれた品が、お客さんのもとに届く（流通に乗る）までフォローできる事業があってもいいのではないか。
- ・6次産業化事業は新開発でないと採択にならない事業だが、開発後2～3年は安定しない面もあるので、フォローできる制度があればよいと思う。
- ・6次産業化事業で生まれた実績等は事業紹介パンフレットに掲載してもいいのではないか。
- ・産業大博覧会については、工業部会や農業部会等、各部会に分かれてブースを設けたが、やや縦割りの感があった。他の部会との連携も強化すべきである。
- ・産業大博覧会の開催は、施策名である「特産品の開発」に結びついているか。
- ・産業大博覧会の開催は、これまで11月や12月に行っているが、聞くところ

よると、「この時期は他にイベントがないから博覧会を実施」とのこと。こういった開催の仕方は改めてほしい。

◇成果指標について

- ・地場産品の高付加価値化に取り組んでいる事業所数を成果指標としているが、取り組み事業所数の把握だけでは、施策の目指す姿である「地場産品を活用し、付加価値の高い多くの商品を開発しています」となじまない気がする。
- ・付加価値の向上を捉えられるものがあれば成果指標として使うべきで、数値の把握が難しいのであれば、付加価値が向上（あるいは下降）したということがわかる内容を示すことでもいいのではないか。売上を見ることで付加価値の成果は計れると思う。

◇事務事業について

- ・産業大博覧会は、開催が目的となっているのではないか。施策の目指す姿につながられるよう工夫が必要ではないか。開催時期も見直していいのでは。
- ・6次産業化事業に関連して、アフターケアを充実させる新しい事業があってもいいのではないか。

◇施策の総合的な評価

- ・施策と事務事業が合っていない気がする（産業大博覧会は施策の目指すところにつながるよう工夫が必要ではないか）。
- ・特産品の開発等は単年度で成果が出るものではないので、中長期的な視点での評価が必要ではないか。

◇記載内容について

- ・施策の目指す姿と実現に向けて取り組む事務事業がかみ合っていない気がする。

平成26年度第4回花巻市行政評価委員会会議録（暮らし部会）

1 開催日時

平成26年8月18日（月） 午前9時30分～午前11時20分

2 開催場所

花巻市花城町1番47号 まなび学園2階第2学習室

3 出席者

委員 5名

鈴木部会長、伊藤委員、佐藤委員、戸来委員、高橋委員

事務局、施策主管課

4 議題及び報告事項

◆施策：地域福祉の推進

- ・「民間事業者と連携した高齢者見守り支援」とあるが、民間事業者の具体的な団体を明記したほうがいいのではないか。
- ・今後の方向性である「社会福祉協議会の相談部門とのワンフロア化を図る」ことについて、以前はどのように分かれていたのか、現在の相談部門がどういった状況にあるのかなど、説明があるといい。

◇事務事業：福祉相談体制充実事業

- ・民生委員の役割を分担させて、負担を軽減させるべきである。民生委員の本来あるべき姿を整理しないと、大変というイメージから選考にも苦慮しており、新たに選任された人も大変である。的確に現状と課題を判断し、早期の具現化が必要である。
- ・民生委員の実態を知らない人にもわかるようにしたほうがいいのでは。
- ・郵便物、宅配物の確認でも気づく判断材料になると思うが、回覧板を回す担当の人にもお願いする方法があるのではないか。

◇事務事業：福祉ボランティア活動支援事業

- ・事業内容に対する質疑

◇事務事業：婦人相談事業

- ・婦人相談の周知を高めるような事業があってもいいのではないか。

◇事務事業：地域福祉推進事業

- ・事業内容に対する質疑

◇事務事業：寡婦等医療費助成事業

- ・事業内容に対する質疑

◇事務事業：生活保護適正化事業

- ・事業内容に対する質疑

◇事務事業：生活保護事業

- ・事業内容に対する質疑

平成26年度第4回花巻市行政評価委員会会議録（人づくり・地域づくり部会）

1 開催日時

平成26年8月18日（月） 午後1時30分～午後3時40分

2 開催場所

花巻市花城町1番47号 まなび学園3階第4学習室

3 出席者

委員 6名

堀籠部会長、中村委員、佐々木委員、尾美委員、福盛田委員、木村委員
事務局、施策主管課

4 議題及び報告事項

◆施策：青少年の社会教育

◇成果指標について

- ・「青少年の健全育成活動にかかわった市民の割合」の目標値の設定は無理があるのではないか。平成24年から平成25年の実績が23.9%から19.8%へと落ちており、この目標値を設定した根拠が不明である。
- ・上記について、よいことであれば、むしろ目標をもっと高く設定すべきという考え方もある。
- ・成果指標の測定方法（アンケート）について、主語がアンケート回答者自身ではなく「青少年」の場合、自身が当該行事にかかわっていない人は実情を知らないため、参加していないという思い込みから低い結果になっているのではないか。
- ・市民アンケートの「地域で行われている行事やボランティア活動に、青少年がよく参加していると思いますか？」は成果指標の測定企画としては不十分であり、工夫の余地がある。とはいえ、これ以上正確に把握することは現実的に難しいことは理解する。
- ・ほかの指標としては、地域・学校・行政などの間でどのように連携が図られたかを計るものはどうか。

◇成果指標の達成状況について

- ・活動にかかわる市民の減少は、子どもの絶対数が減少しているだけでなく、社会情勢の変化も要因のひとつではないか。核家族化と親の共働き、失業などが考えられる。
- ・達成状況が悪い要因のバックデータ・分析が不十分である。

◇施策を構成する事務事業について

- ・事業名と内容が直結しないためわかりづらい。

◇施策の総合的な評価について

- ・現状把握の記載のみであり、今後の方向性が不十分である。

◇事務事業：青少年健全育成事業

- ・事業内容に対する質疑
- ・この事業に限ったことではないが、高齢化に伴う次世代育成の課題があるため、地域とのかかわりを重要視しないと続かない。

◇事務事業：青少年活動推進事業

- ・事業内容に対する質疑
- ・一部の団体への個別の補助金ではなく、連絡協議会などを設立し、情報共有・事業協力体制を整えて、社会教育全体に寄与するような方法が効率的ではないか。
- ・会の存在により、教育委員会と生涯学習の連携が必要な場合などに、縦割り行政を解消できる効果も期待できる。
- ・補助金については、ほかに受け皿となる団体があるのであれば、平等な機会確保のため、周知をすべきはないか。
- ・家庭教育講座を実施するにしても人が集まらないのであれば意味がないので、もっと効果的な方法はないか。たとえば、ランチつきにすれば人気が出て、口コミでも広がるのではないか。

◇その他

- ・事務事業レベルと施策レベルから、互いに成果指標を見て、何にお金を使って何の効果を得ているのかをたどっていくと、事務事業と施策との間で方向性が合致しないように見える部分がある。